

IEC SC48D 「電子機器の機械的構造 標準化」 規格の現状と活動報告 セミナー

■主 催：IEC SC48D 国内委員会

■担当部署：知的基盤部（標準G）

■参加者数：38名

概 要

IEC SC48D（電子機器の機械的構造）では電子機器用キャビネット／ラック、サブラック／シャシーの機構・構造ならびにその試験法について標準化を進めており、これまでに屋内用、屋外用の2つの区分で規格を規定してきた。また、近年では電子機器の熱管理が重要視されていることから、キャビネットの熱管理に関するデザインガイドの開発も進めている。今秋のセミナーではこれまでに制定した規格の概要と今後の開発の方向性を、今年9月にスウェーデン・ストックホルムで開催された国際会議の報告とともに紹介した。

一方、SC48D国内委員会では試験法規格のIEC 61587シリーズのJIS規格化を進めている。この過程で明らかになったキャビネット／ラックの耐震試験法の改訂の必要性について、国際委員会にメンテナンスの要求を行い日本が提案国となった。さらに昨今問題

が顕在化しているサーバ搭載キャビネットなどの熱管理について、機器搭載上デザインガイドの提案を2008年に行った。これら2つの日本提案が今回の国際会議でWG2とWG5のメイン・テーマとして議論された。WG4では高速シリアル伝送に対応するプリント基板とサブラックの寸法規格が、IEC SC48Bにおけるコネクタ規格とともにドイツより提案された。これは今後のプリント基板／コネクタの実装の大きなテーマである。

セミナーでは、これらの規格開発の技術的背景と状況を解説するとともに実際の適用に関する質疑応答も行われた。

また、IEC 61587シリーズのJIS規格化については、その内容と意義・JIS発行のスケジュールが紹介された。

プログラム

○開催挨拶

SC48D 国内委員会 委員長 杉浦伸明 氏

○「IEC SC48Dの活動の概要」

SC48D 国内委員会 委員長 杉浦伸明 氏

○「ストックホルム・キスタ国際会議の報告」

SC48D WG2/4メンバー 島田章夫 氏（シュロフ(株)）

○「IEC/TS 62610-2 空冷キャビネットの熱設計法 テクニカル・ガイドの概要」

SC48D WG5メンバー 黒木擁祐 氏（NECエンジニアリング(株)）

○「IEC 61587シリーズのJIS規格化 適用と意義」

SC48D WG2/4メンバー 末光吾郎 氏（日本電気(株)）

○質疑・応答

